

—— シェリー先生にはかなわない ——

国際化にふさわしい教育の話題をシリーズで紹介する「教育・イン・ザ・ワールド」。今回は、県立安積女子高等学校から、派遣校でのAETの活躍の様子を紹介します。

『シェリー先生の前じゃ、もう漢字の話はできないなあ』という声が聞こえてきます。社会科のS先生が、ふと思い出したように話されたことです。

『この字は何と読むんですか』と差し出された紙には「Y」のように見える字が書いてあったので、ア



ESSのお花見パーティ

メリカ人の先生の質問にはは変だなとは思いますが『アルファベットのYじゃないんですか』と答えたところ、『いえ、漢字だったら何と読むんですか』と再度の質問に、漢字にはそういう文字はありませんと答えたのだそうです。

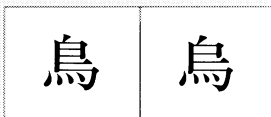


ティーム・ティーチングのひとコマ

しばらくして、シェリー先生が来て、『分かりました。これは、アと読んで、二又になった枝の先の形を表し、それに似た形の子供の髪型の揚げ巻きのこと、転じて、そのような髪をした者、つまり少女を表す、ということです』と言われ、いまさらながらにシェリー先生の研究熱心さに感銘したという話で

した。

日米の発想の違いを感じた、という話は職員室にも数多くあります。次の2つの漢字を見比べて下さい。



シェリー先生に拠ると、この2つの漢字の相違点で一番重要なところは上部の「白」の部分だということです。「白」の中にある一本の線が欠けると「白」となってしまっ、もはや「白」を表わさ



校内 除草

ず、黒い鳥のカラスを表す、というふうに考えるのだそうです。

“Buon giorno, come sta?” “Bene, gnazie, eLei?” LLからは、放課後のイタリア語講座の会話が聞こえてきます。滞日も3年目に入ったシェリー先生の新たな挑戦の始まりです。



花かつみ祭(学校祭) ステージ発表の合間に